

GOVERNOR's Monthly Letter



インスピレーションになるう

国際ロータリー 第2580地区ガバナー月信 vol.4

2018年10月号

資料

- 2P コーディネーター NEWS 10月号
- 3~4P ハイライトよねやま 222号
- 5~6P バギオだより Vol.68
- 7~20P 青少年奉仕情報 第31号

コーディネーター
NEWS



青少年奉仕情報

Rotary
Zones 1 & 2 & 3コーディネーター
NEWS

2018年10月号

発行: Zones 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーディネーター

■「増加及び増強について」

会員増加および増強が必要とすれば、根本的には質と数との問題はありますが、なぜ増加及び増強が必要なのかを理解しこの事を原動力とすることが大切だと思います。

RIロータリー章典(2017年6月版)によれば、「5.010.会員増加および増強」および「5.010.1.会員の増加における個々のロータリアンの役割」には「ロータリー会員であることの利点を他の人に推進することは、全てのロータリアンにとって共通した個人的な責務である。」と記されています。また、ロータリーの目的の第1には、知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること、とされています。これらからすると、そもそも会員増加および増強は全てのロータリアンの責務なのです。個々の地区やクラブの問題として考えてみた場合には、1つの指針として「ロータリー章典(2017年6月版)17.010.3.地区の規模」には「クラブ数が75に満たない、また所属ロータリアン数が2700名に満たない地区にこれらの数に達するよう奨励している」となっています。これからするとこの基準を満たすまでは増加および増強の必然性ありと判断されますが、では基準を満たしている地区はこれ以上増加及び増強の必要はなくても良いのでしょうか？

1地区平均2700名止まりで良いとするなら我国は34地区ですから合計で91800人程度となり、RIは1ゾーン35000人±10%が必要としていますので、これでは3ゾーン(105000人必要)を保つ事が出来ません。3ゾーン体制を保つなら現状では計算上1地区平均3100人が必要となりますが、全ての地区やクラブがこの基準に達する事には中々計算通りにはいかないでしょう。

日本は今までの3ゾーン体制が今後2.5ゾーンに減少することが決定しています。日本のロータリアン数は現状90000人弱ですから元の3ゾーン体制に戻すなら人数的には全国で約15000人の増加が必要となります。基本的に個々の地区ではなく、日本ロータリー全体(各ゾーン)の問題として増加および増強を優先して考える事だと思います。

大きな地区はより大きく、小さな地区は少なくとも基準に向かっての普段の努力が求められます。短期的(3~5年程度)で純増15000人(1地区平均純増450人程度)の増加は可能でしょうか？簡単に可能な地区もあれば、中々難しい地区もあるかも知れませんが、数字的にみれば6人のロータリアン(全国で15000組)が数年で1人以上の会員を確実に入れれば達成できる数なのです。60人の会員数のクラブであれば、10人の会員増となります。

1つのメルクマールとして6人組を作ってはどうか。1つの方法論として申し上げました。

第1ゾーンロータリーコーディネーター補佐 坂本元彦 (富士見)

■「会員基盤向上セミナーから感じたこと」

今年も3月末に「会員基盤向上セミナー」が200名を越える参加者を得て、大変熱気に溢れたセミナーが開催出来、開催者の1人としてホッとすると共に各地区が会員増強・退会防止に苦慮していることを改めて強く感じました。

今回は、会員増強に成功された事例を多くご紹介することに重点を置いて、RC・RPIC・RRFCの方々と準備を進めました。今回、取り分け反響が大きかったのは、大宮西RC高橋会長、東京八王子西RCの三浦PAGの事例紹介であったと感じています。その両名のお話に通じていたことは、誰がリーダーシップを取るのか、会員各位も増強や退会防止に関心はあるが、最初の一步をどう踏み出すかということが一番重要だと強調されていました。

増強に成功されているクラブは多かれ少なかれ、また形を変えてクラブの「戦略計画」を持たれています。八王子西RCは創立50周年を一つの契機にクラブ全体で50周年に100名を達成するという共通認識を持ち、会員各位がそれぞれ役割を持ち推進し、結果目標を達成したとお聞きしました。その勢いは、現在も続いており115名から120名を視野に増強を続けていると伺っています。

地区を上げての取り組みの成功例は2840地区が2013-14年度からの3年間で150名を越す増強に成功されていますが、ガバナー、エレクト、ノミニエとの連携で戦略計画を策定され、大きな成果を上げられました。

また、全国で最も会員数の多い2760地区は昨年度、神野ガバナーのリーダーシップの下、地区を挙げてクラブの戦略計画導入に尽力され、5000名に届く勢いの増強とクラブ拡大を達成されています。どんな組織でも、目標を持ち、それを実現するための計画が必要とされています。組織はその戦略に従うものであり、組織ありきでは決してありません。最初のリーダーシップを誰が取り、力強い第一歩を踏み出すのかが、各クラブ、またそれを支える地区チームにとって最大の課題であると感じています。それを出来るのは、やはり会長であり、ガバナーであると思います。ただ、大事なことはガバナー年度、会長年度になって出来るものではなく、エレクト、ノミニエの時代からの思いと連携が必要であると考えます。また、強調したいのは、パストという役割です。パストは終わりを意味するのではなく、次の始まりであるとの認識が必要です。戦略計画を実行していく上で、パストの役割は大きいとも感じています。あくまでも、現年度のサポートという役割です。さて、最後に多様性についてですが、基本はやはり職業分類にあると思います。クラブが末永く繁栄していくためには、様々な意味で多様性が必要であることは論を待たないと考えます。その基本にはクラブの構成メンバーのバランスが肝要だと強く思います。2760地区を拝見していると、その重要性を改めて感じます。もちろん、年齢構成、女性会員の比率なども重要ですが、職業分類の多様性もクラブの戦略計画を策定する場合の大事な要因であると思います。

会長、ガバナーには最初の一步を力強く踏み出していただきたいと思います！再度、3ゾーン復活を目指しましょう。

第2ゾーンロータリーコーディネーター補佐 水野 功(東京飛火野)

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース



ハイライトよねやま

2018.9.13

Vol.222

理事会・評議員会報告 —役員改選で新理事長就任—

下記の通り、理事会（8/21開催・書面）および定時評議員会（9/6開催）を開催しました。

第二十回理事会 議長：小沢一彦理事長 出席者：理事 27人 監事 2人 列席者 3人

【主な議題】評議員後任候補者、理事・監事候補者、2017年度事業報告および附属明細書、2017年度計算書類、2018年度収支予算書一部修正、専門委員選任、定時評議員会招集など：原案通り承認

第九回評議員会 議長：仲田昌弘評議員 出席者：評議員 20人 常務理事・監事 8人 列席者 1人

【主な議題】定款変更、2018年度評議員の選任、2018年度理事・監事の選任、2017年度計算書類承認など：原案通り承認

理事会および評議員会の前には、直前RI理事としてご列席の齋藤直美氏から「米山記念奨学会の意義」について、また、(公財)米山梅吉記念館理事長であり、当会評議員である積惟貞氏から「米山梅吉記念館創立50周年記念事業」についてのお話をいただきました。各会議終了後には、それぞれ退任される理事、評議員への感謝状贈呈を行いました。また、両会議において、任期満了で理事長を退く小沢一彦氏から最後のごあいさつを頂きました。評議員会終了後のセレモニーでは、齋藤直美氏から小沢一彦氏に感謝状が贈呈されました。



小沢前理事長（左） 齋藤新理事長

第二十一回理事会

評議員会での理事選任を受けて、決議の省略による理事会（書面決議）を開催し、右記の役員が選定されました。

理事長	齋藤直美氏 (2760)	
副理事長	埴 東男氏 (2820)	若林紀男氏 (2660)
常務理事	武田和夫氏 (2800)	山崎淳一氏 (2830)
	水野 功氏 (2750)	滝澤功治氏 (2680)
名誉理事長	小沢一彦氏 (2780)	

GETS でよねやま親善大使がスピーチ

9月3日～4日に都内で開催されたガバナーエレクト研修セミナー（GETS）の2日目午後・閉会本会議において、当会の小沢一彦理事長と岩邊俊久事務局長が米山記念奨学事業の現況報告を行いました。小沢理事長はこの4年を振り返り、「米山ほどロータリーのためになり、平和のためになるプログラムはない。ぜひこの奨学事業に参画していただきたい」と、ガバナーエレクトにメッセージを送りました。

続く「学友3名のスピーチ」のセッションでは、ロータリー財団（グローバル補助金）学友とROTEX学友と共に、よねやま親善大使のアブデルアール・アハメドさんが登壇し、「米山奨学

生に選ばれて～奇跡の出会い～」と題してスピーチしました。母国エジプトの紹介をはじめ、「誰がカウンセラーかわからないくらい、皆さんにお世話になった」という世話クラブとの交流、研究の傍ら尽力する、日本の子どもたちへの異文化交流活動についての思いなどを語りました。アハメドさんならではの、ユーモアたっぷりのスピーチに会場は何度も笑いに包まれ、終わりには大きな拍手が送られました。



寄付金速報 — 10月の米山月間に向けて —

8月までの寄付金は前年同期と比べて0.7%減（普通寄付金:1.4%増、特別寄付金:4.4%減）となりました。昨年1千万円の大口寄付をいただいたこともあり、前年度比では多少減少したものの、直近15年間では2番目に高い寄付累計額となりました。心より厚く御礼申し上げます。

当財団は内閣府より「公益財団法人」の認定を受けているため、当奨学会への寄付金には所得税、法人税の税制優遇が受けられます。相続税も非課税となります。今年度もぜひご協力ください。詳細は当会ホームページをご覧くださいませよう、よろしくお願いたします。

2地区協同で一級河川の清掃活動

9月1日、柿田川湧水公園の清掃奉仕活動が行われ、第2620地区（山梨・静岡）と第2580地区（東京）の奨学生・ロータリアン、第2620地区米山学友会、同地区インターアクトなど、合わせて約150人が参加しました。

この活動はもともと沼津柿田川RCが長年続けていたもので、4年前から地区の活動となりました。また、奨学生を連れた研修旅行で毎年米山梅吉記念館を訪れていた第2580地区では、当時の地区米山奨学委員長の働き掛けもあり、第2620地区と協同でこの柿田川湧水公園清掃活動



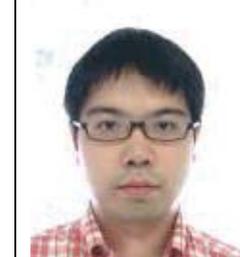
行うことになったとのこと。

米山奨学生やローターアクトたちは、胸までの胴付き長靴を着用し、冷たい川の中に入って外来植物を除去したり、公園内の草むしりをして、汗をかきながら清流の維持に一役買いました。

台湾学友会による日本人への奨学金が10年目

台湾米山学友会（正式名称：（社）中華民国扶輪米山会）による台湾版米山記念奨学事業「日本人若手研究者奨学金」が設立10年目を迎えました。6月末の締切までに19人の応募があり、台湾米山学友会理事会による選考の結果、過去

最多となる5人の合格が決定しました。合格者には今年9月から1年間、台湾学友会から毎月25,000台湾ドル（約90,000円）が支給されるほか、学友会メンバーがカウンセラーとなって、台湾での留学生生活を物心両面で支えます。

				
山中 彩 国立台南藝術大学大学院、繊維専攻。染色工芸における表現技法	小島 和華子 国立中興大学大学院、生物医学専攻。うつ病患者の痛み知覚緩和	小菅 理沙 国立台湾大学。東アジア地域包括的経済連携における台湾の参加	松葉 隼 国立政治大学大学院。日本統治期における台湾の交通網形成	烏谷 亜紗子 国立屏東科技大学大学院、農園生産専攻。AI式改良SRI水稲栽培

一般財団法人 比国育英会バギオ基金

2018年9月号 Vol.68

バギオだより

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-9 新盛ビル 5F

TEL03-5367-1937 FAX03-5367-1938

E-mail baguiofund@eos.ocn.ne.jp <http://www.baguiofund.or.jp>

過去のバギオだより ⇒ <http://www.baguiofund.or.jp/baguiou7.html>

会長 多田 宏 (2580 地区)

幹事 平塚 隆志 (2750 地区)

バギオ基金「卓話用DVD」完成

どなたでも卓話ができるよう制作を企画しておりました、卓話用 DVD が遂に完成いたしました。8月7日、都内スタジオでプロの声優の方と多田会長で収録いたしました。収録時間は20分間となり、どなたでも卓話が可能ですので是非クラブで実施してください。

RI 第 2580 地区・RI 第 2750 地区の全クラブと支援クラブへは DVD をお送りさせていただいておりますが、DVD をご購入の方は、お気軽にバギオ基金事務局までお申し付けください。皆様のご活用を期待しております。 (幹事 平塚隆志)



バギオ基金卓話用DVD スタジオ収録の様子 (多田会長・平塚幹事)

第6期留学生 インターンシップで徳島県のホテルを訪問

7月25日～8月20日の日程で、沖縄県 専門学校大育 調理本科在学中のバギオ基金第6期留学生3人(ダダンさん、カレンさん、ジェイエルさん)が、インターンシップで勉強のため、徳島市にあるルネッサンスリゾートホテルに来ていました。8月15日に阿波踊りも見学することができ、すごい迫力で感動したそうです。また、バギオ基金の芝野理事(鳴門RC)が経営している「モアナコーストホテル」も近くでしたので、8月16日に見学を兼ねて訪問させていただきました。北欧風のお洒落で素晴らしいリゾートホテルだったそうです。この体験が卒業後に活かされることを希望します。 (総務担当副会長 斉藤 実)



モアナコーストホテル



芝野理事、カレンさん、ジェイエルさん、ダダンさん



阿波踊り

東京秋川ロータリークラブ「アユの塩焼きを食べる会」

野村評議員（東京東村山RC）にお誘い頂き、8月30日、秋川溪谷リバーパーティオで行われた東京秋川RCの例会に第5期留学生のレイン君が参加しました。

当日は、東京秋川RCのアユ友釣同好会の皆様が一生懸命釣ってきてくださったアユと会員の方が作られた美味しい生姜と秋川牛をご馳走になりました。ロータリアンの方との交流で楽しいひと時を過ごすことができました。



レイン君と東京東村山 RC のメンバー

◎バギオ基金からのお知らせ

第40回バギオ訪問交流の旅は、2019年2月8日（金）～11日（月）の3泊4日（延泊プランは4泊5日）で行います。お申し込み開始は、9月25日（火）からとなります。

ご希望の方は募集要項をバギオ基金事務局までご請求ください。

◎バギオ基金卓話依頼のお願い

ご希望により卓話に伺います。今後は以下のクラブへ卓話に伺う予定です。

- | | | | |
|----------|-----------------------|-----|------------------|
| 9月7日（金） | 東京板橋セントラル RC（2580 地区） | 卓話者 | レイン カズさん（第5期留学生） |
| 9月7日（金） | 東京狛江 RC（2750 地区） | 卓話者 | 平塚隆志 幹事 |
| 9月11日（火） | 東京北 RC（2580 地区） | 卓話者 | 多田 宏 会長 |
| 10月5日（金） | 札幌幌南 RC（2510 地区） | 卓話者 | 斉藤 実 総務担当副会長 |

◎バギオ基金へのご協力に感謝いたします

2018年7月～8月の受入寄付金は、22件 1,140,500円です。

昨年度（2017年度）の寄付金受入額の合計は、332件 8,707,700円でした。

※2017-2018年度分として ●那覇西 RC 石川正一様

※バギオだより第67号に掲載のお名前が誤っていました。

正しくは、東京城西 RC 小貫員義様です。訂正しお詫び申し上げます。

◇ 後援ロータリークラブからのご寄付

- 東京臨海 RC
- 東京武蔵府中 RC
- 鳴門 RC（徳島県）

◇ RC 創立周年記念寄付をいただきました。

- 8/8 東京臨海 RC 創立 25 周年記念寄付

◇ 後援者（個人）からのご寄付（敬称略）

- | | | |
|-------------------|------------------------|-------------------------|
| ●東京福生 RC
宮崎慶男 | ●東京臨海 RC
斉藤 実 | ●つくば学園 RC（茨城県）
鈴木富士雄 |
| ●東京城東 RC
山田 晃 | ●東京臨海東 RC
長島和子 今西 勇 | ●敦賀（福井県）
中村紀明 神谷保男 |
| ●東京神田 RC
多田 宏 | ●東京豊島東 RC
羽鳥貞雄 | ●福井あじさい（福井県）
前田和寛 |
| ●東京武蔵野 RC
小林 豊 | ●東京豊島東 RC
前川昭一 | ●前田メイリン（前田和寛） |
| ●東京王子 RC
越野充博 | ●那覇西 RC
新垣裕道 | ●和歌山北（和歌山県）
森本芳宣 |
| | ●東京府中 RC
村上保裕 | ●白崎邦彦（北海道札幌市） |

寄付金受入口座：郵便振替 00130-0-102022 サイヒコクイカハキョキキ
三井住友銀行 東京中央支店 普通 8246604 イハツサイタンホウジン ヒコクイカハキョキキ

「バギオ基金」について、よりご理解を頂くために、卓話に伺わせていただきます。
ご希望の RC は基金事務局までお申し込み下さい。



青少年奉仕情報

国際ロータリー第2580地区 2018-2019年度

地区青少年奉仕委員会編集

第31号 2018年9月18日発行

地区青少年奉仕委員会では、地区内での青少年奉仕活動を共有するとともに、各クラブの青少年奉仕活動をさらに充実させるため、「青少年奉仕情報」を発行しております。各クラブの青少年奉仕活動をご紹介するだけでなく、インターアクト、ローターアクト、青少年交換、職場・就業体験、RYLA、学友の活動についてもご紹介してまいります。ご愛読、そしてクラブ内への情報共有をよろしくお願ひします。

第31号の目次： 青少年奉仕からは「私立高校の就業体験受入れと注意点」、ほか		
P. 3	インターアクト	第55回インターアクト年次大会のご報告
P. 4	ローターアクト	「Love Act One ～深めよう！ 障がい者理解～」、ほか
P. 11	青少年交換	本年度 ROTEX 委員長のご挨拶、ほか
P. 13	RYLA	ロータリークラブ例会での卓話を展開中
P. 13	学友	ご挨拶（本年度新設の学友委員会について）

1. 地区青少年奉仕委員会の活動（ご報告など）

① 青少年奉仕座談会を開催しました

松岡浩地区青少年奉仕委員長を座長として、荒井遥華北豊島学園インターアクトクラブ会長、三浦慎太郎地区ローターアクト代表、並木景 ROTEX 委員長が参加して行いました。座談会の趣旨は「クロスプロモーション」(青少年奉仕各セクターの相互理解、交流とともに、連携により奉仕を行うこと)のきっかけづくりです。三浦慎太郎地区ローターアクト代表をファシリテーターとして、(1) 自己紹介、(2)



各セクターの説明、(3) インターアクター、ローターアクター、ROTEX になって良かったこと、(4) インターアクター、ローターアクター、ROTEX が一緒にできることは？、

(5) 今後の展開は？について語り合いました。青少年奉仕のセクターは接することが少ないですが、この機会に相互理解(各セクターによるロータリーへの温度差があることも)ができるとともに、ロータリアンが青少年、青少年奉仕にどのような思いを持っているかを理解いただきました。各セクターの運営についての課題(ある役職に負担が偏ることな

ど)と、リーダーがメンバーそれぞれに個性があることに気付き、適材適所を行うことの重要性を共有しました。良かったこととしては、インターアクター、ローターアクター、ROTEXになることによって、高校、大学、社会人では普段できないことを経験できているとのことでした。今後の展開としては、この座談会の拡大版、各セクターからの参加人数を増やして、年度内に複数回開催したいという提案がなされました。また、外国人との交流など国際理解の機会のある場をつくることの提案もなされました。

② 私立高校の就業体験受入れと注意点（東京板橋セントラルロータリークラブより寄稿）

8月20日、当クラブ会員の行政書士司法書士事務所にて、私立本郷高校の生徒2名（1年生）の就業体験を受け入れました。身近なところで、行政書士・司法書士の仕事を理解してもらうため、区役所、税務署、都税事務所、郵便局、法務局を回りました。また、お客様とのコミュニケーションの仕方の体験ということで、会員の税理士事務所にご協力をいただきました。税理士のお仕事の説明や、なぜ税理士になったか、税理士になって感じる喜びなどを、高校生にわかりやすく説明をしていただきました。1年生であり、大学進学希望なので、なかなかお仕事のことはイメージしづらかったようですが、将来の進学、就職などキャリア形成について考えるきっかけになったようです。上記のほか、8月30日、会員の寺院でも本郷高校の生徒5名の就業体験を受け入れました。

この受入れは、当地区のサイト掲載からのお申込みによります。ただし、左記のサイトは当地区と連携している東京都教育委員会（都立高校）や、各クラブのある地方自治体の教育委員会（公立中学校）からのお申込みを想定しています。都立高校や公立中学校からであれば、受入れに際してのリスクの想定と、緊急時の連絡先、損害保険の加入などの対策が整備されています。しかしながら、私立高校の場合ですと、そのような整備がなされていない、または不十分なところが多いようです。

実際、当クラブには、昨年から現在まで3つの私立高校からお申込みがありました。ある高校は生徒からのFAXでした。学校にお問合せしたところ、学校は把握していないとのことでお断りしました。本郷高校も生徒からのFAXでした。学校にお問合せしたところ、「社会部」という部活の一環とのことでした。しかし、リスクの所在の明確化、リスク発生の場合の連絡先・損害保険加入について不明確でしたので、顧問教師にお願いして、学校名でこの点を明確にした文書の提出をしていただきました。もう一校は先生からのFAXでした。学校にお問合せしたところ、本年度から学校として就業体験の派遣を行ってきたいとのことでした。しかし、リスクの所在の明確化、リスク発生の場合の連絡先・損害保険加入について不明確でした。現在、学校にてこの点を検討・調整されています。

当地区として想定していた公立中学校も都立高校以外からのお申込みが増えてきそな気配があります。キャリア教育が浸透してきているというのは素晴らしいことではありますが、公立中学校も都立高校以外からのお申込みの場合は、学校が把握しているかどうか、または把握していてもリスク体制の整備ができているかどうかの確認が必要となります。この点、ご注意いただければと存じます。

2. インターアクトの活動（ご報告とご案内）（鈴木祥太地区インターアクト委員長より）**① 第55回インターアクト年次大会（大会テーマ「未来への道」）のご報告**

年次大会は東京と沖縄でそれぞれ活動するインターアクターが年に一度、一堂に会して各インターアクトクラブの活動を確し交流を深める貴重な機会です。本年度は2018年8月5日（日）、沖縄県浦添市の昭和薬科大学附属高校にて、昭和薬科大学附属高校インターアクトクラブがホスト校、浦添ロータリークラブがスポンサークラブとして開催されました。午前中は開会式で松坂順一ガバナーより来賓ご挨拶をいただき、各インターアクトクラブの活動報告が発表されました。午後からは記念講演として国際ロータリー第3360地区（タイ北部）、チェンライロータリークラブのバスト会長の原田義之様よりタイでの山岳民族の現状や識字率向上、教育支援の重要性についてお話しいただきました。その後、インターアクターは各グループに分かれてテーマ別の討論会が開催されました。沖縄基地問題、サンゴの白化、地球温暖化等、高校生にとっては難しいと思えるテーマについて活発に議論がされました。閉会式にてグループ毎に討論会のまとめが発表されました。閉会式後は校内のカフェテリアにて懇親会が企画され、沖縄・東京それぞれのインターアクターによって趣向を凝らした余興が披露されました。



東京から参加のインターアクターは29名（このほか、顧問教師5名）。8月4日～6日の2泊3日で沖縄を訪問しました。初日の4日は首里にて琉染という沖縄伝統的な染物を体験しオリジナルのTシャツを作成しました。夕方からは北谷町サンセットビーチにて歓迎バーベキューに参加しました。天候にも恵まれ南国の美しい夕焼けを見ながら沖縄と東京のインターアクターの交流を深めることができました。本大会翌日の6日には普段はなかなか入ることができない在日米軍海兵隊基地のキャンプフォスター内部の見学ができました。基地内の高校やショッピングスーパーなどを見学し日本国内でありながらアメリカの海外の文化に触れる貴重な経験ができました。

第55回インターアクト年次大会は昭和薬科大学附属高校インターアクトクラブの行動力と浦添ロータリークラブのインターアクトクラブに対する情熱とホスピタリティーを感じる素晴らしい3日間でした。インターアクターにとっても今回の楽しい思い出と貴重な経験は、人生の1ページに刻まれる素晴らしい時間だったと感じ、今後の活動の糧になると確信いたしました。最後に今大会をご手配、ご準備いただいた中家輝勝実行委員長をはじめ伊良皆善子会長率いる浦添ロータリークラブの皆様にご心より厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

② 第56回インターアクト年次大会のご案内（2019年7月28、29日）

ホスト校： 愛国学園インターアクトクラブ

スポンサークラブ： 東京東江戸川ロータリークラブ

3. ローターアクトの活動（ご報告とご案内）（地区ローターアクト広報委員会より）

① 地区 Love 委員会からのご報告「Love Act One ～深めよう！ 障がい者理解～」

8月26日(日)、台東区の小島社会教育館にて初の地区 Love 委員会行事「Love Act One ～深めよう！ 障がい者理解～」を開催しました。当日は、日本盲導犬協会の職員様とPR犬のエミリーが来場し、卓話に加えて目隠しの状態での盲導犬を連れた歩行や白杖の使い方、点字の読み書きを体験させていただきました。体験者から「目が見えない状態での歩行は恐怖を感じる」、「点字を指の感覚で読むことはとても難しい」という声が上がりました。体験を通して、健常者である自分たちは普段意識もしないことが視覚障がい者にとってはハードルに感じていることが分かりました。行事後半は、「今の社会に足りないこと」、「私たちができることは何か」のテーマについて話し合いました。盲導犬の数が視覚障がい者の数に全然足りていない、ローターアクトクラブ単位で卓話を聞く、自分たち1人1人が広告塔となり盲導犬のことを伝えていく等の回答が寄せられました。当日集まった募金額は61,151円で、地区 Love 委員会行事運営費の一部を足して総額81,408円を日本盲導犬協会様へ寄付としました。



② 東京東ローターアクトクラブ

◆活動報告：7月23日(月)「好きなもの紹介例会」

7月第1例会ではローターアクト同士相互理解を目的に「好きなもの紹介例会」を開催しました。参加したローターアクトには自分の好きなものをパワーポイントのスライドを用いてミニ卓話という形式で紹介してもらいました。当日は4名のローターアクトによる「好きなもの紹介」が行われました。幹事の飯塚勇太が「旅行について」（栃木旅行、北海道9泊10日旅行など）に関して感想を交えながら紹介しました。地区副幹事/東分区分補佐の宮崎寿光が「修理について」（アルバイト経験もある、スマートフォンやパ

ソコンなどの修理) に関してお話ししました。直接、水に触れずとも、ズボンの湿気などでスマートフォンの水没判定が出てしまうなどトリビアも交えながら紹介しました。

ローターアクト代表の三浦慎太郎が「洋服について」(ユニクロやアバクロなどの洋服メーカーの違いや自身が持っている洋服へのこだわり) を分かりやすく紹介しました。そして、会長の河村一輝が「アニメーションが出来るまでについて」(アニメーション制作に興味がある河村はアニメーションが作られる工程)、非常に分かりやすく解説をしました。映像や実際の絵コンテを用いて紹介しました。5分程度でみなさまに自分の好きなものを目一杯紹介していただくことでローターアクトの知られざる一面を知る例会となりました。



③ 東京荒川ローターアクトクラブ

◆活動報告：8月24日(金)「絵本を届ける運動例会」

8月24日、国際理容美容専門学校の会議室で「絵本を届ける運動例会」を行いました。当日の出席者は当クラブのメンバー6人とビジター1人(鈴木宏美地区広報委員長)とゲスト1人、合計8人でした。「絵本を届ける運動例会」を行った背景としては、本年度の我々のクラブターゲットが「ダイバーシティ」であり、メンバーに視野を広げて、多様性を持って物事を考えられるようになってもらいたいという意図があります。今回の活動内容はラオスの言葉に翻訳したシールを、日本の絵本に貼り、その絵本をラオスの子どもたちに届けるというものです。それと同時に、ラオスの子どもたちの成長及び教育に関する環境や背景をメンバーで学習しました。このようなアジア地域の子どもの支援を通して、参加者の経験を深めることができたため、本当に有意義な活動でした。しかも嬉しいことに、ゲストの吉田さんは当日活動が終わった後、即入会いただきました。



◆おすすめ例会情報：9月第2例会「チャリティーBBQ 例会」
開催日：9月29日(土)、受付開始 11:00、開会点鐘 11:15
場所：お台場
登録先：東京荒川ローターアクトクラブ幹事 後藤周(amane.goto@gmail.com)

④ 東京池袋ローターアクトクラブ

◆活動報告：8月18日(土)「映画から学ぶ英会話例会」

8月4日(土)、10:30から、上池袋コミュニティセンター会議室にて、国際奉仕委員長である細野薫櫻さんを講師とした「映画から学ぶ英会話例会」を開催しました。学校教育

の英語は「読む」、「書く」からスタートしますが、本来ネイティブは「聞く」、「話す」から言語を習得するため、「聞く」、「話す」ことから学ぶことも重要であるという細野さんの提起により、本例会を企画しました。「英語を話したいが中々上達しない」といった悩みをフォーカスして、映画「タイタニック」の名シーンから会話内容を聞き取り、実際に自ら発音するという内容でした。参加者4名のコンパクトな例会で、「英会話カフェ」のようなアットホームな雰囲気では、発音の練習では、「ネイティブの発音は、単語を繋げて話すことがあるため難しい」という声が上がりましたが、数回の練習でネイティブの発音に近づいていきました。講評では、留学経験もある齊藤四方司地区ローターアクト委員長から「実際の口の使い方まで教えてもらえる貴重な例会。また参加したい」とのお声をいただきました。参加者各自が英会話に興味を持つ契機となる、非常に面白い例会となりました。

◆おすすめ例会情報：9月第2例会「東京板橋セントラルローターアクトクラブ・東京池袋ローターアクトクラブ合同タイ料理例会(仮)」

開催日：9月29日(土)、受付開始17:45、開会点鐘18:00

場所：駒込地域文化創造館

登録先：東京池袋ローターアクトクラブ幹事 山田遊(y.steady.y@gmail.com)

⑤ 東京江戸川ローターアクトクラブ

◆活動報告：

7月27日(金)「ボッチャ大会」

ボッチャ大会では優勝チームには「豪華食事会」が用意されていたため、みなふざけつつも、時折真剣な眼差しで取り組んでおりました。また試合後のビールは格別でした。

8月10日(金)「人狼ゲーム」

本例会はメンバーからの強い要望のもと開催しました。

部屋を暗くし、よりリアリティを追求した中での心理戦は手に汗を握るほど緊張感がありました。



⑥ 東京ローターアクトクラブ

◆活動報告：7月14日(土)「Suntory ～挑戦の歴史～」

本年度ローターアクト委員長の鳥井信宏様より、「Suntory ～挑戦の歴史～」というテーマでご卓話いただきました。サントリーホールディングス株式会社では「利益三分主義」という考え方のもと、社会貢献事業もされており、会社経営と奉仕活動が密接に関係していることを学ばせていただきました。また、2013年、グループ会社の上場が行われ、なかなか経験できない貴重なお話もいただきました。「陰徳積めば、陽報



あり」。多くのローターアクターの胸に響いた言葉です。このような素敵な考え方、お言葉をたくさんいただきました。ひたむきに努力を積み、私たちの世代がこれからの社会を作っていかななくてはいけないそんな気持ちになる卓話でした。

⑦ 東京東江戸川ローターアクトクラブ

◆活動報告：8月18日(土)「鶴岡ローターアクトクラブとの交流会」

10月27日(土)、提唱ロータリークラブの創立50周年式典にて、東京東江戸川ローターアクトクラブは鶴岡ローターアクトクラブと友好クラブを締結します。これに際し、8月18、19日で山形県鶴岡市に行き、鶴岡ローターアクトクラブのみなさまと交流を深めました。鶴岡市では、昼は羽黒山、山居倉庫など庄内地方の観光名所をご案内していただき、夜は日本有数の花火大会である赤川花火大会を楽しみました。初めての鶴岡市でしたが、鶴岡市の歴史や文化、そして、鶴岡ローターアクトクラブのみなさまのことを知ることができたとても充実した2日間でした。入念な計画から、当日の観光案内まで至れり尽くせりのおもてなしをしていただき、本当にありがとうございました。



10月7、8日には、鶴岡ローターアクトクラブのみなさまが江戸川にいらっしゃいます。この機会に、鶴岡ローターアクトクラブのみなさまに江戸川区について知っていただければと思います。そして、さらなる親睦を深めることで、友好クラブ締結後も、永続した友好関係を築いていきたいと考えています。

⑧ 嘉悦大学ローターアクトクラブ

◆活動報告：

8月4日(土)「灯りまつり」

8月4日(土)、小平商工会議所が開催している「灯りまつり」に、模擬店をグリーンロード沿いの「たけのこ公園」にて出店しました。毎年、タブレットのアプリを使った「当たりくじ」を行っています。今年はスーパーボールすくいにも挑戦しました。



8月9日(日)「早くも本年度を振り返ろう例会」

毎月1回、嘉悦ローターアクトクラブの中だけで開催する例会の1つです。その月の誕生日の会員のお祝いと、プレ例会として色々試すことを目的として行っています。今回は新入会員が多かったので、本年度はまだ3回ほどの活動なのですが、「早くも本年度を振り返ろう」というコンセプトで本年度の活動を途中クイズをはさみながら振り返りました。

⑨ 東京ワセダローターアクトクラブ

◆活動報告：7月21日(土)、22日(日)「弁天町ファミリーフェスタ」

7月21日(土)、22日(日)の2日間、恒例行事の弁天町ファミリーフェスタに参加させていただきました。参加させていただく毎に出店内容がパワーアップしていますが、今年はなんと、クレープに挑戦しました。クレープは以前、他の方が出店していた人気のお店だったため、「復活させよう」と出店のお手伝いをしました。過去に出店されていたベテランの方に作り方を教わりながら、一緒にお店を回しました。両日共に大盛況で、1日目には準備していた分を完売してしまい、急遽2日目の材料を少し繰り上げて作りました。それでも1日目終了前に完売してしまう、人気ぶりでした。2日目も材料を買い足して挑みましたが、完売する賑わいでした。クレープは工程も多く、今までのものに比べて難しいものでしたが、器用な会員が沢山いたので、無事に終わることが出来ました。



年々地域の方々との交流が増えていると感じます。また、今年は例年に比べて来場者が多かったと感じました。各店舗完売が相次いだのも、来場者が多い点もあるのかなと感じました。このような地域の活動の仲間に入れていただけて活動ができ、参加者みなとても楽しかったです。弁天町では、御神輿も一緒に担がせていただいています。

◆おすすめ例会情報:9月第2例会「World Trivia Game 例会」

開催日:9月29日(土)、受付開始9:30、開会点鐘10:00

場所:大久保地域センター 会議室A

登録先:東京ワセダローターアクトクラブ幹事 中村瑛美(eimimongolia@gmail.com)

⑩ 東京板橋セントラルローターアクトクラブ

◆活動報告:8月23日(木)「落語鑑賞例会」

八谷会長の「本年度はいろいろチャレンジしましょう!」という発案にて、「新宿末廣亭」にて「落語鑑賞例会」となりました。初めて寄席に来た会員、10年ぶりの会員などおりました。落語だけでなく、「新宿末廣亭」の古い造作も楽しみました。当日のトリは、林家正雀さんの怪談「真景累ヶ淵」の「豊志賀」のくだりでした。オチの演出にみな驚いていました。



⑪ 東京浅草中央ローターアクトクラブ

◆活動報告:8月4日(土)「地域診断例会～カミナリオコシ～」

こちらは、本年度からの新しい試みとして行なっていく、地域にベクトルを向けた活動になります。具体的には、ローターアクトの月2回の例会の中で、第1例会では浅草の魅力を発見し、考える例会とし、第2例会では、実際にそれらを実地調査という形で体験していきます。その活動成果として、プレスリリースまたは広報紙を作成し、地元メディア

を通して最大限の情報拡散を狙っていくという活動になります。まずは地域の活動を知り、それらを体験して発信していく活動をしていきます。当クラブのFacebookでも、活動の様子を随時発信していきますので、是非ご覧ください。

◆おすすめ例会情報：10月第2例会「浅草フラダンスフェス in 浅草神社」

福島県いわき市の高校生たちを招待して、浅草神社の境内でフラダンスを披露します。被災地から、日本全国へフラダンスを通じて「元気」を届けようと、日本各地で活動を展開する福島県いわき市の高校生フラガールたちが踊ります。

開催日：10月20日(土)、10月21日(日)

公演：各日3回の計6回(各回30分)

20日 ①14:30 ②15:30 ③17:00

21日 ④10:30 ⑤11:30 ⑥13:00

場所：浅草神社

登録先：東京浅草中央ローターアクトクラブ幹事 北部梨奈(chichomara.09gmail.com)

⑫ 東京池袋西ローターアクトクラブ

◆活動報告：8月20日(月)「東京池袋西RC合同例会」

年に2回ある東京池袋西ロータークラブとの合同例会1回目が、池袋東武百貨店のバンケットホールにて行われました。夜間例会なので、食事をしながら卓話を聴くという和やかな雰囲気では進んでいきました。今回の卓話では本クラブ地区担当の本田理乃会員が、インターンシップで行ったカナダでの教育実習の現場について、現地の文化や生活を交えながらお話してくれました。教育を受けるのが当たり前となっているここ日本では考えられないような教育の格差が存在し、教育環境について驚くことが多く、ロータークラブの大きな目標である世界平和には、まだまだ努力が必要であると感じました。また、本田会員のように慣れた環境と違う場所に身を置くということで、自分では気付かなかった考えや知識の偏りについて身をもって体験するということが大切であると思いました。

⑬ 東京上野ローターアクトクラブ

◆活動報告：

7月18日(水)、東宏樹様卓話「私のこれまでの人生・仕事の失敗談&もろもろのこと」

「模範となる先輩を紹介してほしい」というメンバーの声に応え、国際ロータリー第2780地区パストローターアクト代表及び国立研究開発法人防災科学技術研究所研究員の東宏樹様をお迎えして、我が国の防災の現状、研究によって生まれたアプリなどのお話しをお伺いしました。また、どのようにしたらローターアクトクラブとしてメンバーの結束が強くなるかを教えていただきました。

8月6日(土)、松下純子様卓話「文京区について」

東京上野ローターアクトクラブの活動テリトリーは上野だけではなく、文京区も含まれています。本例会では文京区にも裾野を広げるべく、メンバーが日頃から親交のある文京

区議会議員の松下純子様をお迎えし、文京区の福祉やまちづくりについてお伺いするとともに、視覚障がい者体験を行いました。今後、「文（ふみ）の（みやこ）文京区」においても活動の可能性を模索して参ります。

8月22日（水）、小田部巧様卓話「SDGsについて」

今後、2020年、2030年と国際的な枠組みを通して物事を考える際に避けては通れないSDGs(Sustainable Development Goals)について考える例会を開催しました。博報堂ディレクターの小田部巧様を講師に迎え、食の分野での認証を通した達成目標と、その事例についてお話していただきました。昨今、私たち消費者を取巻くバリューチェーンについて考えるきっかけとなりました。



9月1日（土）、阿部明德様卓話「下谷神社について」

東京上野ローターアクトクラブは下谷神社境内を例会場とすることがあります。例会場のルーツや歴史について少しでも知識を深めるべく、東京上野ローターアクトクラブ会員並びに下谷神社宮司、阿部明德様に東京最古の御稲荷様である下谷神社の歴史と、それを取巻く地域の歴史についてお伺いしました。加えて、本殿に描かれた貴重な横山大観の天井画を見せていただきました。例会場がパワースポットである唯一無二のローターアクトクラブとして、メンバーのモチベーションアップにも寄与できた例会でした。

気仙沼と東京のローターアクト有志による「気仙沼仕事創出プロジェクト」のレポート

7月21日、気仙沼市東新城にあります「やまちょう小野寺商店」さんの店舗内スペースにて「小学校高学年を対象にした夏休み自由研究教室」を開催しました。この教室は、夏休みの自由研究のテーマとして「水産加工品」のアイデアを提供するものです。「水産加工品」、「水産加工会社」を通して、「食育」や「お仕事」について考えるきっかけも提供しました。小学生の親子が地元のことを一緒に考える機会とすることができました。



ローターアクトクラブ例会へのお誘い

各ローターアクトクラブから「おすすめ例会」として、ローターアクトクラブ例会などのご案内がございます。この例会については、未提唱クラブのロータリアンのご出席を歓迎しているものです。ぜひ、ご興味ございましたら、ローターアクト活動に直に触れていただければと存じます。青少年奉仕はまず青少年に会うことからです。お問合せやお申込みは「登録先」のメールアドレスになります。

ローターアクトクラブ例会への出席は、ロータリアンにとってもメーキャップになります。

4. 青少年交換の活動（ご報告）

① 本年度ROTEX委員長（第51期）からのご挨拶

本年度 ROTEX 委員長を務めさせていただく、第 51 期の並木景（立教大学現代心理学部心理学科 2 年）と申します。未熟者ですが、何卒よろしくお願ひします。さて、青少年交換活動における ROTEX の立ち位置はサポート役です。来日学生と、本年度の選考会を通り、来年、海外へ飛び立つ派遣予定学生のサポートのほか、また青少年交換事業の公式行事にも携わっております。先日、行われたサマーカーンプ（日本語学習のキャンプ）の様子から、本年度の来日学生の特徴として、日本語を学ぶ姿勢が常に見えたことが挙げられます。また、派遣予定学生は、自らの意思を言葉にして伝えようという努力を怠らない姿勢を感じました。これからこのような来日学生、派遣予定学生と接していくことが、とても楽しみです。本年度 ROTEX 活動をする仲間の抱負をまとめたところ、ほとんどが共通して、来日学生、派遣予定学生に、限られた時間の中で目一杯にさまざまなものを経験して、楽しんでほしいと考えていることが明らかとなりました。本年度の ROTEX 委員長として、私も来日学生、派遣予定学生にそのような経験をしてもらい、共に成長できるよう、精一杯勤めて参りたいです。



プロフィール：

派遣年度：2015-2016 年度

派遣先：アメリカ合衆国ウィスコンシン州／第 6220 地区

ホストクラブ：ワウパカ・ブレックファースト・ロータリークラブ

スポンサークラブ：東京小石川ロータリークラブ

② 第 53 期派遣学生帰国

6 月 21 日より 7 月 23 日にかけて第 53 期派遣学生が交換留学を終え帰国しました。出迎えには家族、スポンサークラブ会員、地区青少年交換委員が行き、無事の帰国の喜びを分かち合いました。

③ 2017-2018 年度来日学生帰国

7 月 2 日より 8 月 1 日にかけて 2017-2018 年度来日学生が交換留学を終え母国に旅立っていきました。見送りにはホストファミリー、スポンサークラブ会員、地区青少年交換委員、ROTEX が行き、別れを惜しみ再会を誓いました。

④ 2018-2019年度来日学生来日

8月4日から8月20日にかけて2018-2019年度来日学生が来日し、ホストファミリー、スポンサークラブ会員、地区青少年交換委員、ROTEXが空港まで出迎えに行きました。本年度は、ベルギー、アメリカ&カナダESSEX、メキシコ、カナダCS、フランス、ブラジル、ドイツ、スロバキア、フィンランド、タイから10名を受け入れます。

⑤ 第54期派遣学生出発

7月25日から8月28日にかけて第54期派遣学生がそれぞれの派遣国に向けて期待を胸に秘め出発しました。見送りには家族、スポンサークラブ会員、地区青少年奉仕委員が行きました。

⑥ サマーキャンプ開催

8月11日より8月19日まで埼玉県所沢市にありますコロンビア・インターナショナルスクールにおいて2018-2019年度来日学生と第55期派遣予定学生を対象にサマーキャンプが開催されました。サマーキャンプの目的は来日学生の日本語研修と派遣予定学生の派遣に向けてのアプリケーションフォー



ムの作成です。本年度はフィンランドから派遣される学生の来日がキャンプに間に合わず来日学生9名、派遣予定学生10名の参加となりました。期間中は、ROTEXが勉強のみならず、いろいろと企画を考えて、ドッジボール大会、狭山湖遠足などのイベントを通じ来日派遣学生間の交流も深められました。最終日の前夜は恒例のバーベキュー大会で天気にも恵まれ大いに盛り上がりました。最終日には来日学生にコロンビア・インターナショナルスクール理事長より来日学生に修了証が手渡され、来日学生による日本語スピーチ、そして派遣予定学生による英語スピーチを行い、サマーキャンプを締めくくりました。来日学生は第一ホストファミリー、派遣予定学生は自宅へと帰路につきました。

⑦ 今後の予定

9月23日(日) 14時から20時 学士会館

第53期派遣学生帰国報告会

帰国学生、来日学生、派遣予定学生合同歓送会開催、学士会館

9月29日(土) 裏千家「今日庵」

茶道稽古(来日学生、派遣予定学生)

4. RYLAの活動（ご報告とお願い）（嶋村文男地区RYLA委員長より）

① ロータリークラブ例会での卓話を展開中

本年度初めて実施されるRYLA（Rotary Youth Leadership Awards、ロータリー青少年指導者養成プログラム）に参加する受講者を各クラブに見つけ出していただくため、そして、当地区のすべてのロータリアンにRYLAという青少年指導者養成プログラムを理解してもらえる様に10名の地区委員が各クラブに卓話で回っています。6月20日の東京小平ロータリークラブを皮切りに全70クラブのうち既に実施済みを含めて43のクラブに卓話を展開しています。クラブ卓話ではRYLAの歴史からその目的、そして、当地区として初めて開催する沖縄でのRYLAの概要、各クラブから推薦いただくRYLA受講生の見出し方などを中心に行っています。また、卓話では地区RYLA委員会で作成したパワーポイントを使用させていただいていますが、その中には私たちがモデルとしている第2670地区、第2680地区が共催されている小豆島余島でのRYLAセミナーの様子を収録した動画（約10分程度）を入れ込み、RYLAという新しいプログラムの全体像がわかるように工夫させていただいています。クラブ卓話後の委員の感想としては、クラブ内でのRYLA自体への関心は高いが、具体的にRYLA受講生を見つけ出す段になると困惑されているクラブが多くあるように感じています。RYLA受講生の見つけ出しについてはロータリアン自身の身の回り、お子さんやお孫さん、そして会社の従業員さん、今までクラブの奉仕活動等で協力いただいた団体などへのお声がけをお願いしたいと思っています。あるクラブからは、RYLA受講生の募集を地域社会への声がけ、ロータリークラブの公共イメージの向上に利用したいとの嬉しいメッセージや、一つのクラブで複数名の受講生の申し込みをされたクラブもあります。

RYLA・青少年奉仕は「与える奉仕」ではなく「育てる奉仕」であります。クラブ内で話し合い、「青少年奉仕の第一歩」として一人でも多くのRYLA受講生の推薦をよろしくお願ひします。

4. 学友委員会のご挨拶（平井憲太郎学友委員長より）

① ご挨拶

学友委員会（本年度新設）とは、ロータリーの青少年奉仕プログラムで育成してきた青少年のOB/OGを組織化し、ロータリーとの繋がりを維持し、ひいてはロータリークラブへの入会を期待できる学友会を援助するための委員会です。これまで「学友会」というと、ロータリー財団親善奨学生などの財団資金によるプログラム参加者による財団学友会、米山奨学生のOB/OG組織の米山学友会については、長い歴史を誇り、見事な活動を続けています。しかし、青少年交換、インターアクト、ローターアクトについては、各ロータリークラブで個別にOB/OG会が存在することはあっても、地区として支援する全体の組織はありませんでした。当委員会が目指すのは、これらを一括した学友会として、学友自らが自発的に運営できる、強力な組織となるようにサポートしていくことです。現在、青少年奉

仕、インターアクト、ローターアクト、青少年交換、ロータリー財団、米山奨学、そして本年度新設されたRYLAの各委員会から1名ずつ推薦されたメンバーで委員会を構成しています。今後、上記の学友からも委員を募って活動を進め、本年度内に学友が一堂に会するイベントを実施したいと考えています。

「青少年奉仕情報」第31号発行にあたって

記録的猛暑の夏が記憶へと変わりつつある今日この頃、2018-2019年度は7月1日を起点と考えますと、早くも2ヵ月が経過しました。各クラブにおかれましてもクラブ運営が軌道に乗ってきた時期でございましょうか。さて、各クラブのみなさまのご理解とご協力のおかげをもちまして、地区青少年奉仕の各奉仕活動も順調なスタートを切ることができましたことをご報告申し上げます。心より御礼申し上げる次第でございます。今号では、インターアクト年次大会、ローターアクトの各種活動報告、青少年交換では来日・帰国・出国、サマーキャンプをはじめ、新設のRYLA委員会が精力的にクラブの例会に出向きRYLAを説明に回らせていただいている姿、同じく新設の学友委員会から活動の方向性についての解説等々盛り沢山の内容を掲載させていただいておりますのでぜひ隅から隅までお目通しいただき、青少年奉仕活動の「今」をお知りいただければ幸いに存じます。「青少年奉仕活動の主役は青少年たちである」ということを実感していただけると確信しております。また、各クラブにおかれましては、ローターアクト、ROTEXを卓話に呼んでいただき、ローターアクトの活動実態や青少年交換プログラムの交換留学生の動向に対するご理解を一層深めていただきますとともに、大勢のロータリアンの前でお話しをするという成長の機会を若者たちに与えてくださいますようお願いいたします。こうした一つひとつの小さな取り組みこそがクラブの活成化、地区青少年奉仕の活性化を具現していくものであるとの思いを持ち、今後とも青少年たちの活動と成長を力強くサポートするロータリーの青少年奉仕たるべくみなさまとともに前を向いて進んで参りたいと念願しております。

地区青少年奉仕委員長 松岡浩（東京本郷ロータリークラブ）

今号も最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。

クラブから、青少年奉仕活動の開催情報・ご報告（写真のデータとキャプションだけでもかまいません。随時募集中です）、また、本誌へのご意見・ご質問などをお待ちしております。

お問い合わせ／掲載希望などの連絡先

地区青少年奉仕委員会（担当；茂木）まで mitsu-motegi@msc.biglobe.ne.jp